

平成31年3月2日

平成30年度文部科学省委託事業「専修学校グローバル化対応推進支援事業」

外国人留学生受入に関わる香川県専門学校意識調査  
調査報告書

—平成30年度—

一般財団法人 香川県専修学校各種学校連合会調査背景  
【目次】

I. 調査概要	1
II. 調査内容	
1. 外国人留学生の在籍状況	3
2. 在籍人数と内訳	4
3. 入学の基準と求める日本語能力	5
4. 受け入れにあたっての不安と配慮	5
5. 留学生の住まいへの対応	6
6. アルバイトの斡旋と時間管理	7
7. 留学生の卒業後について	7
III. 調査結果まとめ	9
IV. ヒアリング個票	

## I. 調査概要

本県の人口は、平成7年に（約102万人 国勢調査より）ピークを迎えた人口が減少し始め、平成52年に約77万人（日本創成会議・人口減少問題検討分科会試算より）にまで減少することが予想されている。中でも年少人口・生産年齢人口の減少は深刻で現在の67万人から平成52年には、48万人まで減少する事が予想されている。

このような状況の中、優秀な外国人留学生の受け入れを拡大し、将来質の良い働き手を確保・増加させることは地方都市においても喫緊の課題となっており、既に香川県、高松市においては具体的施策として動き始めている。

専門学校で学ぶ外国人留学生はそのほとんどが、専門的知識・技術を生かして日本に定着すること、あるいは10年スパンで日本で就労しその後は経験を生かして母国との懸け橋となる事を望んでいる。

これまで東京・大阪・宮城・広島・福岡といった中核都市で実施されてきた留学生のアシスト事業はいま、地方の地方である香川県においても取り組みが始まったところである。

本調査は香川県内企業における外国人留学生の実情を探るべく、大企業から中小企業へのヒアリング調査及び外国人留学生へのヒアリング調査を実施した。

調査手法は、企業を訪問してのインタビューと外国人留学生へのインタビューと定性調査形式で行い、アンケートなどによる定量調査の数字では表れてこない本音を明らかにすることを目的とした。このようなエスノグラフィーインタビューは、現場での問題を、企業それぞれの置かれた立場（文脈）の中で、より深く探ることに長けている。ヒアリングから、現在香川県および地方都市が抱える人材の問題、外国人就労の可能性を、各企業や地域が抱える問題の中で捉える事で、専門学校として地域の要望に応える人材の育成につながり、企業にとっては地域の労働問題を解決するヒントになることを目的に実施している。

## 外国人留学生受入に関わる香川県専門学校の意識調査 調査方法

香川県の専門学校5校における留学生への対応状況についてヒアリング調査を実施した。うち、現在留学生が在籍している学校は3校であり、在籍していない2校については過去にも在籍の実績がなかった。在籍している3校については、留学生の受け入れに状況および卒業後の対応について、さらに詳しく聞き取りを行った。

### 調査方法

#### ■調査対象／専門学校5校

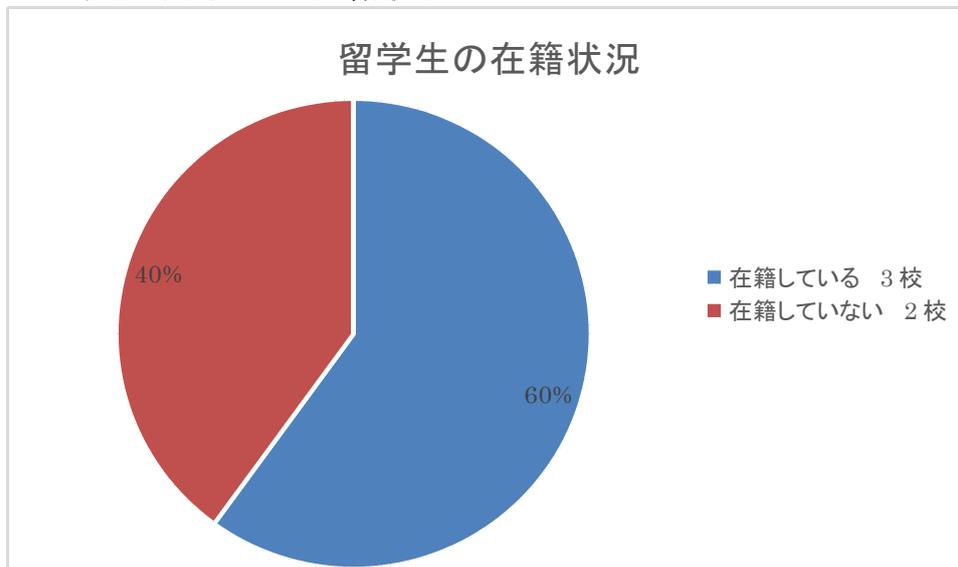
- ・ビジネス専門学校
- ・調理師専門学校
- ・服飾専門学校
- ・福祉専門学校
- ・医療福祉専門学校

#### ■調査方法／対面インタビュー

- 調査期間／2018年12月17日 四国学院大学専門学校  
2018年12月17日 吉田愛服飾専門学校
- 2018年12月18日 四国医療福祉専門学校
- 2018年12月19日 穴吹カレッジ
- 2019年1月9日 キッス調理技術専門学校

## Ⅱ. 調査内容

### 1. 外国人留学生の在籍状況



- ・在籍している／ビジネス専門学校、調理師専門学校、服飾専門学校
- ・在籍していない／福祉専門学校、医療福祉専門学校

今回調査した5校のうち、留学生が在籍しているのは3校であった。県内専門学校の留学生受け入れ体制は必ずしも整っているとは言えない状況である。在籍していない2校はいずれも福祉関係の学校で、過去に一度も留学生を受け入れた実績がない。職員からは「個人としては積極的に受け入れたいが、理事長の考えはまだそこまでになっていない（福祉専門学校）」との声も聞かれ、トップの意向が影響を与えている一面が見られた。

#### ■職員の声

##### 【在籍していない学校】

◎希望してきたことがないんですね。問い合わせがあったこともないです。積極的に募集していないというのが大きいかと思います。（福祉専門学校）

◎積極的に募集していないのが大きいかと思います。特に拒否しているわけではないんですが、積極的に海外へ行くなど、そういうことはしていませんので。（医療福祉専門学校）

##### 【在籍している学校】

◎高松とセントピーターズパークとの姉妹都市提携の第一期の時から、当校の初代校長は往き来していました。（まだ日本に留学生を受け入れる習慣が根付いていなかったため）留学生第一号は、文科省に直接手紙を書いて受け入れた経緯があります。留学生を受け入

れる DNA がそもそもある（服飾専門学校）

◎近隣だと岡山、それ以外でも東京や大阪とか日本全国の日本語学校から本校に来ていただいております（ビジネス専門学校）。

## 2. 在籍人数と内訳

※これ以下の項目については、すべて在籍している3校についての調査結果となる。

専門学校／学科	人数
調理師専門学校	1名
服飾専門学校	1名
ビジネス専門学校／企業ビジネス学科	4名
ビジネス専門学校／国際ビジネス学科	6名

・留学生の在籍人数／合計10名

・国籍／インドネシア、ベトナム、ネパール、中国、フィリピン、韓国、台湾

留学生が在籍している学校の内訳を見てみると、受け入れ人数はまだ限定的であることがわかる。「国際ビジネス学科」の6人が目を引くが、このコースは留学生のみを受け入れているとのこと。日本人と一緒に学んでいるのは「企業ビジネス学科」の4人ということになる。

出身国に極端な偏りはないが、アジア圏からの留学生が中心である。「日本料理がブーム」というのがあり、中国人で日本料理をやりたいという方が増えている（調理師専門学校）」など、留学生側は卒業後のビジネス展開をにらんで学校を選んでいるようだ。

### ■職員の声

◎彼らは日本で就職したいという気持ちで通っていますので、我々としては受け入れというよりは、出口となる就労ビザの取得というのが一番悩ましいところです（ビジネス専門学校）

◎東京の大きな服飾学校も検討したそうですが、本人に「私は田舎の方がいい」という希望があったそうです。それで親御さんがこちらに見学にいらして、ここだったらということで、その場で願書を出されました。（服飾専門学校）

◎問い合わせレベルでは韓国、台湾あたりからもメールがきます。（調理師専門学校）

### 3. 入学の基準と求める日本語能力

専門学校／学科	試験内容	求める日本語能力
調理師専門学校	面接と作文	N2
服飾専門学校	面接のみ	N3
ビジネス専門学校／企業ビジネス学科	入学試験と面接	N2
ビジネス専門学校／国際ビジネス学科	日本語能力試験と面接	N3

各校とも、入学基準については日本人と同じとの回答であった。求める日本語のレベルに関しては、日本人と一緒に学ぶことが前提となる場合はN2レベルの日本語能力が必要というのがほぼ共通認識である。「授業は日本語で進行しますし、調理実習も日本人とグループでやっていくので、コミュニケーションが取れないと実習が進まないの、そこまでのレベルがないと難しい（調理師専門学校）」という理由であろう。服飾専門学校がN3としているのは、「見て、手を動かして覚える実習が6割くらいあるから」。国際ビジネス学科は、そもそも留学生を対象にしているので、教える側に準備ができています。

#### ■ 学校職員の声

◎企業ビジネス学科を受験する場合は日本人と同じ試験をして、日本語能力もN2をボーダーにしています。N2を持っている子しかチャレンジできないということにしています（ビジネス専門学校）

◎国際ビジネス学科の場合は、基本的にはN3程度ということで募集して、勉強しながらレベルを上げて行きます（ビジネス専門学校）

◎面接はさせていただいて、筆記とか日本語の試験はありません（服飾専門学校）

◎他校さんのお話も聞かせていただいて、N2の資格を持っていること（を基準にして）、面接試験で日本語能力を確認させていただいています（調理師専門学校）

### 4. 受け入れにあたっての不安と配慮

専門学校	不安要素
調理師専門学校	不安なし
服飾専門学校	不安なし
ビジネス専門学校	不安なし

3校とも実績があるため、留学生受け入れへの不安は感じていない。一方で、留学生のた

めの配慮は少なからずある。留学生の国籍が多彩なビジネス専門学校では、イスラム教のお祈りのために「ここ使っていないよという部屋を用意している」とのこと。各国の文化にも理解があれば、留学生が学びやすい環境となる。

■職員の声

◎留学生がいるクラスといないクラスでは、教員の方も言葉の使い方とか、ちょっと簡単な言葉に言い換えるなど、意識はしていると思います。ゆっくり話すようにしたりとか、簡単な言葉に置き換えたりとかの工夫はしています。

◎専門用語が出てくるとわかりにくい部分があるみたいなので、質問するようにとあります（調理師専門学校）

◎ファッション用語がカタカナ英語なので、漢字圏の子は苦労しています。（服飾専門学校）

## 5. 留学生の住まいへの対応

専門学校	住まいへの対応
調理師専門学校	アパートを借りてもらう
服飾専門学校	アパートを借りてもらう
ビジネス専門学校	学校の寮を斡旋

一人暮らしの住まいは、留学生にとってハードルのひとつである。ビジネス専門学校のように学校の寮があれば問題はないが、寮のない専門学校は多い。留学生がアパートを借りようとする「オーナーさんが昔からの人のところは嫌がりますね（服飾専門学校）」など、オーナーの理解が必要になる。また日本人の保証人がいないと貸さないという所も多く、「校長が保証人になって借りることが多い（服飾専門学校）」と、対応に苦慮している。

■職員の声

◎母国のお父さんが日本の賃貸サイトで物件を探したのですが、不動産屋さんに問い合わせたら、やっぱり外国人はだめだと言われました（服飾専門学校）

◎もともと高松に知り合いの方がいらっしゃって、その方が保証人になっているんです（調理師専門学校）

## 6. アルバイトの斡旋と時間管理

専門学校	アルバイトの斡旋	労働時間の管理
調理師専門学校	要望があれば対応	管理していない
服飾専門学校	要望があれば対応	管理していない
ビジネス専門学校	要望があれば対応	管理している

留学生のアルバイトは、本人から要望があれば学校側が対応している。「問い合わせがあれば紹介はさせていただく（調理師専門学校）」「服飾系の販売とかを斡旋することはありません（服飾専門学校）」「紹介してもらえないかと言われたら、今までにお付き合いのある所を紹介します（ビジネス専門学校）」と、各校ともスタンスは同じである。

ところで留学生のアルバイトは1週間に28時間までと決められている。その規制は各校とも把握している。その中で、ビジネス専門学校のみ「留学生への指導もきちっとしています」と時間管理をしていた。

### ■職員の声

◎就労のために来ているわけではありませんが、生活のためには必要だということで斡旋しています。限られた時間の中である程度稼ぐとなると時給の良い所となりますが、深夜になれば授業の妨げにもなるので、兼ね合いも考えて無理の無い範囲で探しています（ビジネス専門学校）

◎服飾系のお店で留学生にアルバイトに来てほしいというところはあります（服飾専門学校）

◎高松の飲食店さんは、どこも留学生のアルバイトが欲しいんですよね（調理師専門学校）

## 7. 留学生の卒業後について

専門学校	留学生の卒業後の状況
調理師専門学校	母国に戻る予定（本人は日本で働く意志がある）
服飾専門学校	日本で働く意志あり
ビジネス専門学校	県内の就職率が3～4割

留学生の卒業後について、現在1名のみ在籍している調理師専門学校、服飾専門学校では、両名とも日本で働きたいとの意志があるという。ただし調理師専門学校の留学生は、現時点では母国に戻る予定であるようだ。

複数の留学生を抱えるビジネス専門学校では、卒業後に香川県内で就職する割合が3～4割弱。「香川県で外国人雇用の実績を持つ企業さんはそんなに多くない」との認識を持っている。「入管等々との手続きややり取りが面倒に思われたりとか、あるいはご存知なかったりということがあって、内定を出したものの入管が通らなくて採用できなかったという企業さんがけっこうある」とのこと。ここには雇用に向けた改善の余地がある。

一方、これまで最も大きな障害となっていた就労ビザに関しては、4月から特定技能ビザが施行されることとなった。「就労ビザがとれず、留学生の方たちは残りたい、残りたいと言いながら、泣く泣く母国に帰っていた（調理師専門学校）」という状況が、大きく緩和される。卒業後の雇用について、企業側にも留学生川にもメリットがあると、各校では期待をよせている。

#### ■職員の声

◎入管の方からは「留学生は専門知識を得て、かつ語学力にも長けていることを生かせる職に就いてほしい」と言われ、なかなかビザがおりません。ビザを申請してできるだけ通りやすいところとなると、香川県内ではなかなか就職が難しい（ビジネス専門学校）

◎香川県で教育して香川県の人材になってもらうということを考えています。留学生にも香川県の企業が良いと斡旋していくので、受け入れていただく企業さんがどんどん増えてほしいです（ビジネス専門学校）

◎特定技能ビザがしっかり広まってくれば、本当にありがたいです。特に和食店では、留学生がすごく働いてくれると評判になっているので（調理師専門学校）

◎服飾デザイナーとして絵が描けるので、東かがわ市の手袋関連みたいなのところに向いています（服飾専門学校）

### Ⅲ. 調査結果まとめ

#### <1> 専門学校の受け入れ意識

- ・留学生の受け入れに対して、積極的な学校と消極的な学校にわかれている。「生徒になりうる」と認識していない学校が、まだ一定数ある模様。
- ・留学生の受け入れには学校のトップの意識が影響している。
- ・留学生が在籍している学校においても、日本人と同じクラスで学ぶ留学生は少ない。

#### <2> 学生としての条件

- ・N3もしくはN2以上の、日本語での日常会話ができる留学生が受け入れの条件となっている。
- ・国籍に対する条件はない。
- ・必ず面接をして、コミュニケーション能力を確かめてから合否を決めている。

#### <3> 受け入れに対する配慮

- ・なるべく難しい日本語を使わず、専門用語をわかりやすく伝える努力をしている。
- ・まだ大きな問題として顕在化していないが、今後はイスラム教のお祈りに対する対応を求められる可能性がある。

#### <4> 住まいに対する対応

- ・賃貸アパートのオーナーの中には、外国人を嫌がる方がいる。また、条件として日本人の保証人を求められるケースが多い。
- ・ある学校では校長は保証人となって対応している。
- ・寮を備える学校では大きな問題になっていない。

#### <5> アルバイトに対する対応

- ・基本スタンスは、留学生からの要望に応じてアルバイト先を斡旋。
- ・日本の企業（店舗）から、留学生を斡旋してほしいとの要望が学校に届いている。
- ・1週間の労働時間の管理は、本人に任せている学校が多い。
- ・多くの留学生を抱える学校は、アルバイト時間まで指導している。

#### <6> 留学生の卒業後について

- ・卒業後、県内の企業で働く留学生は3～4割
- ・日本で働く意志を持つ留学生は多いが、これまでは就労ビザの問題が大きな壁となっていた。
- ・留学生の就労に消極的な県内企業はまだ多い。手続きへの不安もその原因のひとつ。

- ・特定技能ビザにより、今後は県内で働く留学生が増えるかもしれない。特に飲食業界からは期待されている。